









柏崎お仕事体験塾実行委員会 2023年度 活動報告書











実施に至る経緯

2014年から開催してきたお仕事体験塾は、2020年には新型コロナウィルスの影響により大勢が集まっての開催については中止を余儀なくされましたが、ホームページの充実と「柏崎お仕事ムービー」及び「ガイドブック」の作成に取り組んだうえで、歩みを進め続けてきました。

そのうえで、2022 年度は3年ぶりの対面型の開催をすることができました。新型コロナの影響でどのような開催形式にするかが非常に悩まれましたが、教育委員会、学校側とどのくらいの規模ならば開催できるのかを慎重に協議し、「少人数+事前申し込み制」として開催しました。

2022 年度の開催と結果報告を経たうえで、2019 年以前のような、「子どもたちが楽しむため」のお仕事体験塾も良かったが、2022 年度のような「子どもたちがしっかりと学びを得る」お仕事体験塾のほうが本事業の趣旨に近いという結論に至りました。

そのうえで、2023 年度は以前のように子どもたちがただ楽しい体験をするのではなく、各体験に時間をかけ、子どもたちが「自分の将来を考え、学びある時間にすること」「柏崎刈羽の大人の思いをしっかりと子どもたちに伝えること」を主眼に置いた開催形式として実施させていただきました。

今、考える、お仕事体験塾の必要性

以前から柏崎市においては人口の減少やそれとかかわる若者の働き手不足が喫緊の課題です。その中で私たちは、学校の先生方や教育委員会の方々と意見交換を進めた結果、職業体験を通して柏崎で様々な魅力ある職業に就く素敵な先輩と実際に触れ合う機会が大切だと考えています。

そうすることで、柏崎で働く大人の思いに触れ、将来的に柏崎への愛着や誇りをもちながら、未来の柏崎を創る人材になってもらいたいと願います。そして、「未来の柏崎を創りたい」と願う柏崎愛が、社会人になってからの地元就職や、UI ターンのきっかけにつながるものと考えています。

お仕事体験塾のねらい

- 「柏崎で働く大人の思いに触れ、柏崎の未来を創る人材を育てる」
 - ・望ましい勤労観、職業観を身に付け、生涯にわたり生きる力を育む。
 - 出会った様々な業種や人々との触れ合いから柏崎愛を育てる。
 - ・地元の事業所が連携して未来を担う子どもたちの育成をする。

2023 年度の主な活動

- (1) 体験型でのお仕事体験塾の実施
- (2) お仕事動画撮影&編集&ホームページでの公開(継続事業)
- (3) お仕事体験塾への賛同者を募る活動(協力金募集)

お仕事体験塾実行委員会 年間の活動内容

(1) 委員会の開催(計10回)

期日:1月19日(木)、2月16日(木)、3月16日(木)、4月20日(木)、5月18日(木)、6月22日(木)、7月28日(金)、8月17日(木)、9月21日(木)、10月19日(木)

時間:19:00~21:00

(2) 年間の活動経過

1月19日(木) 本年度から協力金としてお仕事体験塾の資金を募ることの確認

2月16日(木) 協力金募集チラシの作成・共有

3月16日(木) 協力金集め開始

4月10日(月) 子ども夢基金 事業費支援内定

5月8日(月) 協力事業所の公募(柏崎日報 掲載)

5月8日(月) 協力事業所の公募(FMピッカラ 放送)

5月18日(木) 出店事業所内定 & 追加募集開始

6月22日(木) 出店事業所内定 & 各事業所と事業内容の打合せ

7月10日(月) チラシ配布開始(小学校4・5・6年生)

7月18日(火) 申込締め切り

7月28日(金) 申込者全員の受け入れを決定

8月8日(火) 体験チケットを申込者に郵送

8月8日(火) 協力事業所への説明会(会場:第一中学校)

8月20日(日) お仕事体験塾の事業実施

9月5日(火) 簡易報告をHPに掲載

10月19日 (木) 報告書完成 & HP に掲載

お仕事体験塾 当日の活動内容

(1) 開催日時

2023年8月20日(日)

8:30 ~ 16:00 ※詳細はチラシ下部をご確認ください。

(2) 会場

柏崎市立第一中学校

(3)参加対象

柏崎市、刈羽村在住の小学校4・5・6年生

(4)参加児童生徒数

事前の申込者数 : 101 名 当日の体験者数 : 96 名

延べ体験回数 : 約380回

① アニメーター : 柏崎アニメスタジオ

アニメーターブースでは昨年度の模写体験の内容をベースに、もっと面白く、学びになり、 そして興味を持ってもらえるようにと、3枚の原画を子どもたちに描いてもらい、それをタ ブレットに取り込み、アニメーション動画にして視聴する体験を行いました。たった3枚の 絵がアニメーションになるのを見てたくさんの子どもたちが感動していましたし、大人が見 ていても目からうろこの体験内容でした。

アニメーターは東京ではなくとも、地元で仕事をすることが可能であること、漫画やアニメを描くことが好きな子が将来アニメーターになってくれたらうれしく思うことなどを講師の先生が語ってくれました。その思いを真剣に聞いている子どもも多く、地元柏崎でアニメーターを目指してみよう、仕事にしてみようと思う子が出てきてくれることを期待せずにはいられません。



講師から説明を受けた後 それぞれが自分の絵を描きこんでいる様子



この絵を3枚組み合わせるだけで アニメみたいに動いて見えるようになるんだ~

② 医師 : 柏崎中央病院

まず、肺炎を想定した模擬診察です。患者さんと会話をし、容態をカルテに書き留めます。 そこから聴診器を耳にあて実際に患者さんの胸の音を聞き、肺炎時の音と聞き比べてみました。次に防護具の着脱。大事なのは外側に触れずに脱ぐことで、これにはみんな手こずっていました。そして点滴体験では、本物の針を使うということで、一つ一つの所作を手順通り間違えずに進めていました。最後は、心肺蘇生で盛りだくさんの体験を終了しました。

子どもたちは、普段触ることのない聴診器や、点滴の針を前にし、緊張の面持ちでしたが、この貴重な体験で、さらに医師の仕事に興味をもったようです。中には、医師を志望している児童もおり、ここ柏崎で医師として働く意義や良さなどを、星山先生から熱心に聴いている姿もあり、柏崎での医師に夢を繋いだ子どもたちも多かったことでしょう。



「ほら、ここにさすんだよ」 「う~。緊張する」



「その調子で押してくださいね」 「はい、がんばります」

③ 印刷屋 : 株式会社 柏崎インサツ

まずは、三原色について学び「イロ」をデザインしながら、シルクスクリーン印刷を体験しました。3人の講師の豊かな発想や見事な技術に目を輝かせた子どもたち。「赤・青・黄」の3色から様々な色が生まれ、素敵なデザインが完成していくこと、「平面」であっても多様な表現が可能であると、体験を通じて学ぶことができました。

また、講師の皆さんとの対話やふれあいから、講師自身が心から仕事を楽しんでいることを感じ取っていました。さらに、「印刷屋は大切な仕事」である、と社会における印刷会社が果たす役割の大きさに気づいて感動している子どももいました。楽しそうに体験する子どもたちを見ながら、将来この中から柏崎で働いてくれるかも・・・と感じました。



色を全体に塗り付けた後に 紙をはがしてきれいに印刷ができている様子



「好きなように塗ってみてくださいね」「こんな感じでよいのかな~」

④ Web デザイナー : TIES WEB

Web デザイナーの体験は、TiES WEB(タイズ ウェブ)の田中美沙さんを講師に、午前・午後とも2回の体験を連続させた2時間余りで最終的にホームページを完成させることに挑戦しました。

前半は、ホームページ制作の流れや、その際に田中さんが大切にしている点などについてお話を伺いました。コミュニケーションを大事にしながら、お客様の求めるホームページに仕上げていこうとする田中さんの姿勢に感銘を受けました。その後、仮想のカフェのホームページを実際に作る体験に進み、ヒヤリングで聞き取った情報を元に、豊富なテンプレートが用意された作成ツールを実際に使用してホームページ制作に取り組みました。

参加者からは、「何度も間違えたけれど、最後には思い通りに作ることができて良かった」など、楽しさと満足感をみんなが得ることのできる体験でした。



ホームページの制作前に重要なお客様からのヒヤリングも体験



実際にパソコンを使ってホームページ制作「こんな写真、こんな説明はどうだろう」

⑤ 介護士(A): ツクイ柏崎新田畑

「お年寄りの助けて欲しい事を知ろう!」をテーマに、装備品や車椅子を使い、見え方・聞こえ方・体の動きを体験しお年寄りの助けてほしい事や、どんな言葉がけやサポートをすると良いかを体験しました。実際に車いすを押してみたり、目の見えづらい体験を通したりしてお年寄りの大変さを感じていました。

体験後の子どもたちからは、「声をかけてもらってから、次の行動をすると安心して行動できる」「おばあちゃん、おじいちゃんに今よりもっとやさしくしよう」との感想を話してくれる子もいて、介護の仕事を体験し「柏崎のお年寄りをやさしく介護したい」「お年寄りが安心して住める柏崎にしたい」と多くの子が介護の仕事に関心をもった様子でした。



「車いすに乗って車に乗ってみよう」 「ゆっくり、声がけも大切ですよね」



「目も見えづらいし、声も聞こえない~」 「お年寄りにはいつものことなんだよ」

⑥ 介護士(B): 社会福祉法人柏崎刈羽福祉事業協会

介護士の体験として、実際ベッドに寝て体の構造や使い方を上手く活用することで、最小限の力で身体介助をすることができ、介護する側・される側双方の身体的負担の軽減を体験しました。体験後は、少し工夫することで簡単に身体を動かせることに驚いていました。また、介護現場の写真・イラストを見て、そこから想像される危険を話し合い、色々な危険が潜んでいることを感じていました。

最後に、トロミ剤を使用して、実際トロミのついた飲み物を飲みました。飲み込む力が弱くなった人でもトロミを付けることで、いつまでもおいしく飲食できることを体験しました。 今回の体験者のなかには、親が介護の仕事をしている子どももいて、これからますます必要となる介護の仕事を柏崎でやってみたいと興味を持った様子でした。



福祉用具 (スライディングボード) を活用した 介護技術の説明を受けている様子



「トロミが付くのが不思議です~」 「飲む力が弱くても飲めるようになるんだよ」

⑦ 建築士 : 新潟県建築士会 柏崎支部

建築士の体験は、新潟県建築士会柏崎支部の9名の方からご協力いただき、地震に強い構造を知るための「紙ぶるる」模型の製作と様々な屋根の形をした住宅模型の製作という2種類のペーパークラフトによる模型作りを通して、建物の仕組みを学びました。

各体験6人ずつで、やや難度の高い模型作りも建築士の方からマンツーマンで指導をいただき、完成させることができました。また、最後には自分で製作した建物模型と一緒に記念撮影をし、その写真をプリントしてお土産にもらうこともでき、子どもたちからは「難しかったけれど、素敵な家の模型を作ることができた」「家づくりの工夫や地震の時に倒れにくい家の構造を学ぶことができた」など、楽しい体験ができたと好評で、将来柏崎でお家を作ってくれる子が生まれるきっかけになりそうと感じました。



「建物には筋交いが大切なんだよ」 「勉強になります」



「ここを、こうするとできるよ」 「はい。やってみます。うまくできるかな」

⑧ 自衛隊 : 自衛隊柏崎地域事務所

自衛隊って主にどんなことをしているのかな?普段中々考えることの少ない、自衛隊の主な仕事の質問からはじまりました。自衛隊は日本の平和を守る防衛活動、災害が起こった時の救助活動、国内だけでなく、テロや地域紛争などの問題が発生した地域での平和協力活動など、自衛隊の主な仕事を聞き、とても大切で責任感のある大事な仕事であることを学びました。

体験では子どもたち一人一人が実際に道具を持ち、ケガをした時の止血の方法、頑丈だけどほどけ安いロープの結び方、遠くの人に状況を伝える手旗体験、を行い、真剣ながらも、とても楽しそうに体験しており、「思っていた以上にすごい仕事をしているんだ」と、講師の高野さんをはじめと4名の自衛隊の皆さんの姿に憧れをいただいているような印象を受けました。



「紐の結び方はここをここに通して・・・」 「いろいろな結び方があるんですね~」



「ほら覗き込んでごみて」 「棒の先にあるものがみえるんですね」

⑨ 手話通訳士 : 宅ろう所 太陽と月

手話通訳士とはどのような仕事か「宅ろう所 太陽と月」の武藤さん、南雲さんに教えていただきました。身の回りにある何気ない物を耳のきこえない方に伝えるにはどのように伝えたらよいか、子どもたちはとても悩みながらもジェスチャーを使って相手に伝えていました。「猿も木から落ちる」等ことわざはそのままの言葉を手話で表現しても相手には伝わりません。その言葉がもつ意味を伝えてあげることが大切だそうです。

手話、空書、口話等耳のきこえない方とのコミュニケーションの方法はたくさんあります。 その中でも子どもたちは自分の名前を手話でどのように表現するか覚え、自信をもって自己 紹介をしていました。手話通訳士はきこえない人ときこえる人を「心」でつなぐ仕事だと講 師の武藤さんは言います。「手話を覚えてみたい。」そんな気持ちが子ども達に芽生える体験 でした。



実際に耳がきこえない講師から 手話の大切さを学んでいる様子



「ありがとうは、このように表現するんだよ」 「ありがとう。これで伝わりますか?」

⑩ ジムトレーナー : チームゼロスジム

まずはジャブ (パンチ)・キック・フックのやり方を教わりました。とても分かりやすく説明してくれたので、初めて体験する子もあっという間にできるようになりました。その後ミットを持って技を受ける側になり、技を繰り出す側の子に「頭を守る基本の構え」をするよう伝えたり、次の技を指示したりしました。

ジムには子どもから年配の方まで多くの方が通っていて、「遠くへ行かなくても柏崎でできて嬉しい」と喜んでくれるそうです。「自分も通いたい!」「ジムトレーナーの仕事がしたい!」と言っている子もいました。「仕事は、楽しいことを見つけてそれに向かって頑張ることが大事!ただなんとなく頑張るのではなく『1番』になることを目指して頑張ってほしい」とエールを送ってくれました。オーナーの小潟さん、プロ選手の板谷さん、トレーナーの村田さん、ありがとうございました。



「パンチする人も、受ける人も気を付けてね」 「はい。気を付けてやります」



「ミットで受けるのに慣れてきたかも」「楽しくなってきた~」

⑪ 調理師 : THERE IS NOEND

調理師で野菜ソムリエでもある中村さんから、ナポリタン作りを教えてもらいました。味付けはケチャップと柏崎産のトマトとミニトマトを入れることで、酸味が程よく、甘みが出たおいしいトマトソースになりました。柏崎・刈羽には、ナポリタン作りで使ったトマトや玉ねぎのほかにも、枝豆やなす、刈羽節成きゅうり、コシヒカリ、卵など、おいしい農作物がたくさんあります。これらの食材を作る人とつながり、食べる人に喜んでもらう「地産地消」を大切にして、地域を盛り上げたいと話してくれました。

コロナ禍が明け、4年ぶりに自分たちで作ったナポリタンを一緒に味わった子どもたちは、「おうちに人にも作ってあげたい!」と笑顔でした。幼稚園のころから調理師になりたかったという中村さん。「自分の好きなことを仕事にするとがんばれるので、『将来の夢』に向かって、今から好きなことをとことんやろう!」と熱いメッセージを子どもたちに送ってくれました。



地産地消!柏崎で採れたトマトを使って 調理をしている様子



「パスタを上手にバラけて入れるコツはね…」 「こうするときれいにばらけるんですね~」

① 農業用機械販売: ヤンマーアグリジャパン株式会社柏崎支店

最先端の農業機械を3種類見せていただきました。1つ目は薬剤散布などに使うドローンで、手元のリモコン画面で空からのカメラ映像を見ることができました。2つ目は草刈り機を一人ずつ操縦させてもらいました。リモコン式なので人が草刈り機に巻き込まれる事故もなく、狭いところにも入れるし、斜めの場所でも刈り取れる頼もしい機械でした。3つ目は自動運転で直進をアシストするトラクターの運転席に座ることができました。

農業をする方にとって便利な機械を販売するお仕事。機械の販売・修理を通して柏崎でも多くの方と関わりがあり、お客様からとても感謝されるそうです。「どんな仕事でも、まずは全力でやってみてほしい。」「いろいろな人と会って、遊びも勉強も頑張ってほしい。」とメッセージをいただきました。江部さん、長須さん、肥高さん、ありがとうございました。



「自動で動くなんてすごい!」「クーラーも完備していますよ」



「実際にリモコンで操作してみよう」 「自分で操作できるなんて、楽しみです」

③ フローリスト : りとるがぁでん萌 flower & cafe

暑い夏でも「うるおい」「いやし」「楽しさ」を届けてくれるドライフラワーで、アレンジメント作りをしました。どこに何の花を入れていくか、バランスはどうしたらよいかと迷う子どもたちに、「何色が好き?」「自分が楽しいと思うことが大切」などヒントやアドバイスを送りながら実際に仕事でも作っているフラワーアレンジメントの作成体験をしました。

子どもたちは、自分の好きな色や長さなど、それぞれ思ったように配置していき、おしゃれで、かわいくて、すてきな、世界でたった一つのバスケットアレンジメントができあがりました。お店では、お客さんと会話をしながら、お花を買う人、贈られる人に喜んでもらえるようにお花を束ねているそうです。花を受け取った時の笑顔と「ありがとう」の言葉がやりがいにつながっていると教えてくれました。



「こんな感じに飾るときれいだよ」 「こうかな?うまくできるといいな~」



お花をちょうどよいサイズにするために 不要なところを切り落としているところ

🕧 パティシエ : 有限会社 綾子舞本舗タカハシ

「"パティシエの魔法"にふれて、あなただけのボトルスイーツを作ろう!」ということで、フルーツゼリーとスポンジ、クリームを使ってそれぞれ自由な発想で、世界に一つだけのティラミスを作りました。ボトルに材料を入れて専用の機械でふたをすればできあがり。その行程を見て最初は簡単そうと感じていた子どもたちも、実際にやってみると大苦戦。

実際に体験することでパティシエの技術の高さを体感・実感し、質問タイムで講師がパティシエを目指したきっかけやそのやりがいを聞くことで、パティシエを「職業」として見つめ直し、その魅力を感じることができました。将来柏崎で、すてきなパティシエが活躍してくれることを期待しています。



ボトルスイーツの作り方を みんなで見ながら説明を受けている様子



「ボトルに詰める時はこれくらいにしてね」 「はい、やってみます~」

① 保育士 : 新潟県保育士会 柏崎支部

柏崎市内で勤務されている保育士の方々から、1日の仕事の様子や内容をご説明いただきました。その中で園児たちと一緒に行う体操や、手遊びなどの紹介もありました。また、保育士さんが話す「仕事のやりがいや得られる喜び」についての話を興味深そうに聞いている児童の様子が印象的でした。

体験後半では、実際に保育園で行う折り紙づくりやおもちゃ工作を体験しながら、園児が楽しめるような工夫や知恵を学びました。読み聞かせの体験では、園児に見やすい本の持ち方や本を持つ角度、興味を持ってもらえる読み方などを体験しました。ただ読むだけではなく、園児のためにいろいろな工夫をしていることに驚いている様子で、保育士と児童が柏崎の仕事について新たな発見ができた貴重な時間になったと感じています。



「おもちゃ作りは初めてです」 「大丈夫。難しいところは手伝うからね」



「このペットボトルに入れるんですか」 「そう。ここに入れてくださいね」

16 ユーチューバー : ダイスチャンネル

ダイスチャンネルのダイスさんよりユーチューバーになったきっかけと、ノウハウ、そして視聴される方の気持ちになって動画撮影や編集を行う、などのユーチューバーとしての大切な心構えなどを教えていただきました。実際に使用している1台数十万円もするカメラを使用して、カメラへの目線や子ども自身が出演者となり、柏崎といえば海か山か、将来柏崎で仕事をしたいか、など自分ならどちらを選ぶ??というショート動画を撮影しました。

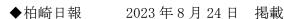
60 分という短い時間でしたが、「撮影が恥ずかしかったけど、やってみたら楽しかった」「ユーチューバーの裏側を見ることができて新鮮だった」など、全体を通して貴重な体験となった様子でした。今回体験した子どもの誰かがダイスさんのように、未来の柏崎を紹介してくれるのではないかと期待をしています。



「<mark>ユーチューバーの心</mark>得は・・・」 「なるほど〜、実際に作るのは難しいんですね」



「これが実際の編集画面です」 「ユーチューバーって大変なんですね~」





◆新潟日報 柏崎版

2023年8月30日 掲載



■参加児童の回答結果(有効回答数:73)

①体験の満足度を教えてください。

大変満足	55 (75.	4 %)
満足	12 (16.	4 %)
普通	6 (8.	2%)
不満	0 (0 %)
大変不満	0 (0%)

②今回の体験が将来の役に立ったと思いますか。

とても役に立つ	4 5	(61.	7%)
役に立つ	1 7	(23.	3 %)
普通	1 1	(15.	0 %)
役に立たない	O	(0 %)
とても役に立たない	0	(0%)

③お仕事体験塾に参加して気持ちの変化はありましたか。

あった	4 8	(65.	7%)
なかった	2 0	(27.	4 %)
無回答	5	(6.	9%)

本年は子どもたちがただ楽しい体験をするのではなく、自分の知らなかった職業や大変そうな職業に就いている大人の思いに触れることで、自分と柏崎の将来を考えることや、楽しいだけではなく、学びある時間にすることを主眼に置いての開催とさせていただきました。

新たな試みである本年の形式だと、どうしてもやりたかった職業を体験できない子どもたちが出てくるため、実施前の時点では子どもたちからの満足度は下がると予想しておりましたが、体験の満足度は満足以上が92%を超えており、不満だったとの回答がなかったことをとても嬉しく思っております。

また、様々な体験を通じて本事業が将来の役に立つと思ってくれる子どもも85%を超えており、本事業を通じて子どもたちに良い影響を与えていると感じていると同時に、アンケート内には出てこないものの、多くの子どもたちが家に帰ってからも体験の話を保護者の方に楽しそうに話していることなどを耳にしており、今後も続けていくことにさらなる後押しをいただいております。

今後も本事業を通じて子どもたちの未来に良い影響を与えると同時に、より多くの子どもたちが参加できる受け入れ態勢づくり、参加した子どもたちにより良い体験を届けるための仕組みづくり、参加した子どもたちの声を事業所や柏崎の皆様に届けるための組織づくりに取り組み続けていきます。そして、柏崎の未来を創る子どもたちを育てるために、活動を継続していきたいと考えております。

■協力事業所の回答結果(有効回答数:16)

①体験の満足度を教えてください。

大変満足	1 4	(8	7.	4%)
満足	0	(0 %)
普通	1	(6.	3 %)
不満	0	(0 %)
大変不満	0	(0 %)
無回答	1	(6.	3 %)

②子どもたちに将来役立つ体験をさせてあげられたと思いますか。

大変思う	4	(25.	0 %)
思う	5	(31.	2%)
普通	5	(31.	2%)
思わない	1	(6.	3 %)
大変思わない	0	(0 %)
無回答	1	(6.	3 %)

③体験前と体験後で子どもたちに変化は感じられましたか。

はい	1 5	(93.	7%)
いいえ	0	(0 %)
その他	1	(6.	3%)

事業所のみなさんのアンケート結果をみると、昨年の満足度は大変満足が42%ほどだったのに対し、本年は87.5%の事業所様から体験の満足度が上がっていることもあり、本年の開催形式(抽選方法等)が事業所の皆様にとっても良い形だったのではないかと考えています。

二つ目の設問の「役に立つ体験をさせてあげられたのか。」については、昨年同様「こんな体験でよかったのかな」という不安からの低い結果となっておりますが、本年は各事業所様に対する子どもたちの回答を HP にてお届けしております。体験した子どもたちの生の声を見ていただければ皆様の提供した体験が子どもたちの役に立つ体験になっていることを感じられますので、もう少し肯定的に捉えていただけるのではないでしょうか。

また、特筆すべきこととしては、昨年同様に参加した子どもたちの変化を「大人が感じている」ことにあると思います。なお、昨年も87%と高水準だったのに対し、本年はさらに上回る93%と、さらに子どもたちの変化を大人が見て取れるようになっていることは、良い影響を子どもたちに届けることができていると考えられます。

今後も、本年の反省点を生かし、来年以降もより良い事業を実施することを通じて、柏崎で働く大人の思いに触れ、柏崎の未来を創る人材を育てるために、柏崎を愛する子どもたちの育成に努めていきたいと思います。

本年で 10 年目となるお仕事体験塾ですが、これまで様々なことを乗り越えて継続してくることができました。本事業は特に教育関係の方や保護者の皆様からのご理解をいただきながら行うことが前提であるため、新型コロナウィルスの影響を考慮し、数年間は体制を変えて実施してきましたが、本年より通常の開催形式をとることができ、本当にうれしく思っております。

また、本年は新たな試みとして、各体験の時間を統一し、その抽選を直前に行う仕組みを取り入れさせていただきました。お仕事体験塾としては柏崎にある様々なお仕事に触れてもらうことも目的の一つにありながらも、自分の体験したいものだけを体験していたこれまでの形式からより学びある柏崎の様々な職業に触れてもらうためとして、初めて導入をしてみました。

実施前の段階では自分の体験したいお仕事に行くことができなかったと残念な声が多くあるのではないかと心配しておりましたが、そのような声はほとんどなく、むしろ自分の知らない仕事に触れることができて良かったことや、柏崎に様々なお仕事があることを知ることができたとの前向きな声を聞くことができ、本年の開催形式として本当に良かったと思っています。

本年の開催形式とすることで、子どもたちが自分の知らない体験を通じて、新しい柏崎の魅力を 感じると同時に、職業選択の幅が広がり、目指すものを見つけるきっかけを提供できていると感じ ています。これも一重に本事業にご協力いただいている事業所の皆様、ボランティアの皆様、教育 関係の皆様のおかげと本当に感謝しております。

柏崎地域の大人たちが連携して勤労観や職業観を子どもたちに伝えることで、子どもたちには「柏崎で働きたい」「柏崎の役に立ちたい」と、働くことへの意欲と社会貢献への心が間違いなく育まれています。また、人生観や仕事への自信、やりがいを伝えることで、「柏崎にはこんなかっこいい大人がいるんだ」「私もこんな仕事に就きたい」と、柏崎に愛着と誇りを感じ、未来の柏崎を創る子どもたちの柏崎愛につながっていると感じています。

お仕事体験塾実行委員会は、これからも子どもたちの未来のために、地域連携のきっかけの一つとして、柏崎の未来を少しでも明るく照らすことができるよう活動を続けてまいりますので、今後ともお仕事体験塾実行委員会の活動へのご支援とご賛同をよろしくお願いいたします。本年も多くの方からご協力いただき、誠にありがとうございました。

お仕事体験塾実行委員会

実行委員長 田中 有人

実行委員 猪爪 拓也 岩間 一博 小田麻由美 小野 和也

岸 剛史 近藤多計夫 清水 淑子 須田 有希種岡 和人 前澤佳奈子 山田 智 山田 大介

吉田 淳一 若林 勝 (以上 15名)

私たち実行委員会は「お仕事体験塾」の活動を通して子どもたちが郷土に愛着と 誇りをもち、働くことの意味を実感し柏崎の未来を創るすばらしい人材となってく れることを願っています。この報告書をもとに「お仕事体験塾」を発展、進化、継続 させていくことができるよう願いながら、今後も活動を続けてまいります。